



大森六中だより

令和2年 12月号
大田区立大森第六中学校
校長 松尾 廣文
TEL 3726-7155

朝礼講話「水木しげるさんの戦争体験」

12月7日



本校図書室に行くと、水木しげるさんの「ゲゲゲの人生 わが道を行く」という本を見つけました。

水木しげるさんと言いますと、「ゲゲゲの鬼太郎」の作者として皆さんもよく知っていると思います。

私が子どもの頃、水木さんの漫画は、他の漫画家の作品とは一線を画するような印象をもっていました。今思うと、幼かった私が感じたのは、水木さんのもつ死生観ではないかと感じます。

他の漫画家の描かない陰の部分を水木さんは作品として描いていました。水木さんの後に、それを継承した作家もいましたが、恐怖作家というジャンルで、水木さんとは根本で異なっているような気がしました。

水木さんは、妖怪の研究者でもあり、闇の中に息づく気配のような存在に幼少の頃から興味をもっていらしたそうです。その間の経緯は、「のんのんばあとオレ」といった作品にも描かれています。

目には見えないけれど、確かに感じる雰囲気。妖怪は、皆さんも知っているように、この世の物ならぬ不安定な存在です。鬼太郎もそんな存在なのです。

そのような妖そのものに、水木さんになってしまったのが、水木さんの戦争体験だったのではないかと思うのです。

水木さんは、先の大戦中、20歳の折に南方戦線に送られ、ラバウルからニューブリテン島に送られました。

そこで、敗戦を重ね、裸同然で海やジ

ャングルに逃げ惑ったり、マラリヤの高熱にうなされ、敵の爆撃で重症を負った左腕の切断手術を麻酔なしで受けたりといった悲惨な体験をしたのです。

この間の事情は、水木しげるの戦争物とも呼ばれ、鬼太郎と同じく、水木さんの作品群の特徴になっています。

生来機転の利かなかったという水木さんは、軍隊生活で様々辛い体験もしていますが、南方戦線での思い出は、同僚を多く亡くしたとともに自分自身も生者と死者の間をさまざめたジャングルでの現体験が水木さんの死生観に大きな影響を与えているとは思えないでしょうか。

水木さんが軍隊生活を送ったのは2年間。しかし、語り尽くせないように、水木さんは、沢山の戦争物を描いています。

先月の「六中平和を考える会」では、戦争に翻弄されたオリンピックの歴史に係の生徒が調べ、発表してくれました。

明日、12月8日は、79年前、日本がアメリカ、イギリスに宣戦布告をした日です。それから、3年9か月に渡る長い太平洋戦争へと日本は舵を切ったのです。その当時の遺物が大森六中敷地内で見つかった防空壕です。

年々、貴重な戦争体験を語る人は、少なくなっています。

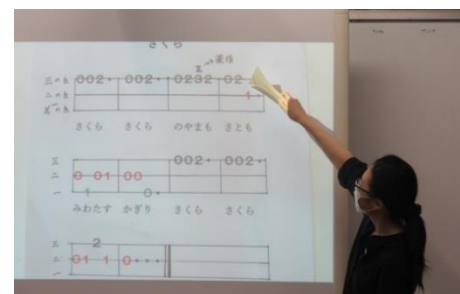
しかし、その歴史を風化させてはいけないことを当時の証言や記録、水木さんの残した作品もそうですが、本校の防空壕も雄弁に物語っているのではないのでしょうか。

ゲストティーチャーを迎えて

11月、12月は各学年、ゲストティーチャーをお迎えして、出前授業をしていただきました。今年度は校外での活動が少なくなりましたが、校内でいつもの授業では聞けない話や体験をすることができ、子供たちの真剣な顔、楽しそうな顔を見ることができました。

《1年生》音楽科三味線授業

各クラス2時間ずつ三味線について学びました。一人一挺の三味線を用意していただき、実際に演奏もさせていただきました。普段、触れることの少ない和楽器に苦戦していましたが、講師の先生方に丁寧に指導していただき、「さくらさくら」を上手に演奏することができました。



《2年生》留学生が先生

モンゴル・中国・ウズベキスタン・ジョージアから日本の大学院に留学してきている方々に、先生として来校していただき、それぞれの国の文化や歴史についてお話していただきました。政治などの難しい話がありつつも、たくさんの写真や小道具を用いた授業はとても興味深く、50分の授業があっという間に感じられました。たくさんの生徒が、「調べ学習とは違い、実際にその国の方にお話を聞くことはより興味もてる。いつか行ってみたいと思った。」と感想を述べていました。



ウェルカムボードを作って講師の先生方をお迎えしました。



中国の古琴という楽器やジョージアの牛の角でできたワイングラス等も見せて頂きました。

それぞれの国の民族衣装を着ての授業。初めて目する民族衣装もあり、子供たちは興味津々でした。



《3年生》 家庭科消費者教育授業

フィナンシャルプランナーをお招きして、お金の役割、消費者トラブル、お金を借りることなどについて学びました。生まれてから今までにかかったお金の概算では金額の大きさに驚く生徒が多くいました。電子マネーやQRコード決済などの新しいお金の形が増えている中、安全な生活を送るためには、正しいお金の知識を持つこと、世の中の情報にアンテナを張ることが大切であると教えていただきました。



持続可能な社会の担い手づくり

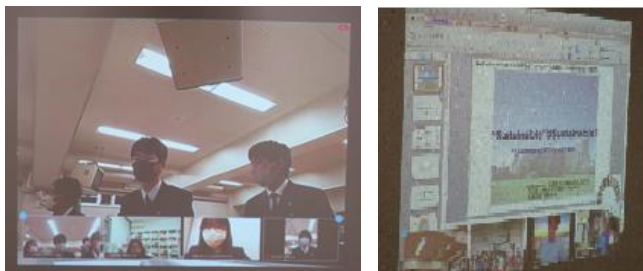
大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

ユネスコスクール交流会 WEB会議

11月24日試験直後の放課後、ユネスコスクールオンライン意見交流会が行われました。テーマは「コロナ禍における学習」で、名古屋国際中学校高等学校の発表があり、その後グループディスカッションで六中生徒会が参加しました。

このような状況でも今できることを考え、ポジティブな姿勢を大切にしている高校生の姿勢に六中生は刺激を受けていました。グループディスカッションでは、積極的に意見を述べたり、質問したり、20分という短い時間ではありましたが、有意義な時間でした。

生徒の感想より「今回交流会に参加し、他校の積極的な活動を知ることができて良かったです。世の中ではマイナスな情報ばかりでしたが、このような活動を行うことによって、自分の意思がプラスの考えになると言うこともわかりました。次の交流会では、この学校で行っていることについてもっとアピールしたいと思いました。」



学級委員会合同会議

ユネスコ委員会から提案され、各学年で行われている学級委員会を合同で行い、それぞれの問題点を出し合い、解決するための提案が成されました。学級委員の活動として困っていること、学年としての改善点などが話し合われ、1, 2年生の課題に対して3年生が真摯に答え、解決策を考える場面があり、頼もしい3年生の姿を見ることができました。今後もユネスコ委員会を中心に学校の問題点や改善策を練る姿に、よりいっそう持続可能な社会の一員として成長していることを感じました。



最後に、学級委員としての方向性を示すための提言を全クラスに配布し、発表しました。

「常識」

～当たり前を当たり前私たちの
第一歩を踏み出そう～

そのために...

一、休み時間の過ごし方考えよう

- ・校舎内で走らばい。予鈴が鳴ったら教室に戻る。密を避ける。
- ・マスクは原則つけ、運動時も鼻までは出してよいがつける。

二、提出物はしっかり出そう

- ・提出物の一覧表を作る。
- ・ホワイトボード、名簿を利用し、出さない人に声をかける。
- ・帰りの学活で未提出者に確認する。

三、不要物を持ってこないようにしよう

- ・学校の決まりを守り、不要物は持ってこない。
- ・持ってきたときには、学級委員が注意する。

この3点を守り、六中生として改めて第一歩を踏み出しましょう。

学級委員会

TV朝日放映されます

TV朝日が毎週土曜日9:55～3分ほど放映している「しあわせのたね。」で本校SDGsの取組について取り上げていただける予定です。是非ご覧下さい。なお、その時点で他の報道が入った場合は予定変更もあり得ます。ご了承下さい。

